

すぐに わかる えびののこと
いき わかい えびのんこつ



すいどう えびのの水道



せんだいがわじょうりゅう きょう
【川内川上流(クルソン峡)】

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ 目次

1.	水道 ^{すいどう} がなかったころ	1
2.	水道 ^{すいどう} の歴史 ^{れきし}	2
3.	えびの市 ^し の水道 ^{すいどう}	
	① えびの市 ^し の水道 ^{すいどう} はいつごろできたの？	5
	② えびの市 ^し の水道 ^{すいどう} の水はどこの水 ^{みず} ？	6
	③ えびの市 ^し の水道 ^{すいどう} の送り方 ^{おくかた}	7
	④ えびの市 ^し の水道 ^{すいどう} はだれが 管理 ^{かんり} と運営 ^{うんえい} をしているの？	9
4.	水 ^{みず} は大切 ^{たいせつ} に使いましよう ^{つか}	10

参考・引用文献

<図書>

資料名	発行年	著者・編者	出版社・発行所など
えびの市水道事業経営戦略（後期計画） 平成30年度～令和9年度 （令和6年度～令和9年度）	令和6年3月	えびの市水道課	えびの市水道課
令和6年度 水質検査計画		えびの市水道課	えびの市水道課
えびの市史 下巻	1998年3月	えびの市郷土史編さん委員会/編	えびの市
広報えびの縮刷版Ⅰ（昭和52年4月号）	1990年12月	えびの市制施行20周年記念 事業実行委員会	えびの市制施行20周年記念 事業実行委員会
今日からモノ知りシリーズ トコトンやさしい 水道の本	2011年11月	高堂彰二/著	B&Tブックス 日刊工業新聞社
環境学習に役立つ！ わたしたちの地球環境と天然資源①水	2018年4月	本間愼/監修 こどもくらぶ/編	株式会社 新日本出版社

すいどう 1. 水道がなかったころ



すいどう かわ みず いどみず ちかすい
水道のないころは、川の水や、井戸水（地下水

く あ つか
を汲み上げたもの) を使っていました。

たいせつ の みず あら
これらは、とても大切なもので、飲み水や洗い

もの ふろ みず つか
物、お風呂の水などに使われていました。



くまいど
車井戸

ほうげん
方言：ツリン（釣井戸）
かっしゃ つか みず いど
滑車を使って水をくむ井戸



てお
手押しポンプ

て じょうげ うご
手でハンドルを上下に動かすと
あつりよく おさされて みずぐちから いどみず
圧力におされて水口から井戸水
がでできます。



くまいど あら ちの ひと
車井戸で洗い物をする人

しゃしん しょうわ ねんだい ごろ
写真は、昭和40年代（1965）頃のものです。

げんざい かわ みず わ みず いどみず しょう
※現在も川の水や湧き水、井戸水を使用されており、地区で管理されている所
ちく かんり ところ
もあります。 の みず えいせいたいさく ひつよう
飲み水は衛生対策が必要とされています。

2. 水道の歴史



にほん すいどう れきし え ど じ だ い い ぜ ん
日本の水道の歴史は、江戸時代以前までさかのぼります。

にほん さい こ すい どう し せ つ ほ う じ ょ う じ や す
日本最古の水道施設は、北条氏康(1515~1571年)が小田原を支配した頃(室町時代)、



おだわらじょう
小田原城
かながわけんおだわらし
(神奈川県小田原市)

はやかわ おだわらじょうか の みず
早川から小田原城下に飲み水

みず ひ おだわらはやかわ
として水を引いた「小田原早川

じょうすい さい こ し せ つ かん が
上水」が最古の施設と考えら

れています。

とうきょう は じ すい どう
また、東京に初めて水道ができた

てんしょう ねん え ど ばくふ
のは天正18年(1590)江戸幕府が

ひら ねんまえ とくがわいえやす けらい
開かれる13年前、徳川家康が家来



とくがわいえやす
徳川家康

おおく ぼとう ごろう めい つく こいしかわじょうすい
の大久保藤五郎に命じて作らせた「小石川上水」

よ さいしょ しせつ つた
と呼ばれるものが最初の施設と伝えられていま

す。

にほんはつ きんだいてきすいどうしせつ めいじ ねん
日本初の「近代的水道施設」は、明治20年

よこはま きゅうすい かいし
(1887)横浜で給水が開始されました。

よこはま ぬま うみ う た かくちょう
横浜は、沼や海を埋め立てて拡張してきたの
で、井戸を掘っても海水が混じるなど良質な水に
めぐ
恵まれませんでした。それに加えてコレラなどの

でんせんびょう おお か じ
伝染病や大火事などで

とうじ ひとびと なや
当時の人々を悩ませてい



ました。



かながわけん こうへいちゅうさ
そこで、神奈川県はイギリス工兵中佐のヘンリ

ー・スペンサー・パーマーを設計者として迎え入

れました。パーマーは、水に十分な圧力を持たせ

きゅうすい
ることにより、給水だけでは

しょうぼう こうか
なく、消防にも効果があるこ

とうじ にほんじん おし
とを当時の日本人に教えま

した。



きんだいてき すいどう いけ かわ みず いんよう
近代的な水道とは、池や川の水をそのまま飲用

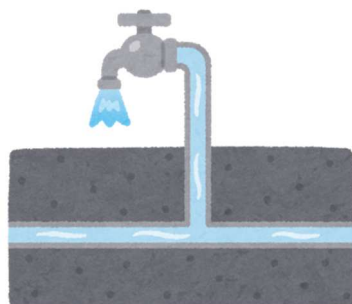
おお か そうち つか の
するのではなく、大がかりなる過装置を使って飲

みず いし き かん てつせい
み水をつくり、石や木でできた管ではなく鉄製の

かん つか あつりよく くわ おく すいどう
管を使って圧力を加えて送る水道のことです。

てっかん あつりよく た
鉄管は圧力に耐え、

たか ところ みず おく
高い所にも水を送れます。



そと おせん ふせ じゃぐち
外からの汚染も防ぐことができます。また、蛇口に

ほ ほ りよう みず つか
よって、欲しいときに欲しい量の水を使うことがで
きます。

きんねん てっかん きんぞくせい みず
近年では、鉄管などの金属製（サビやすく、水
も漏れがする）ではなく、サビの発生しない
じゆしせい すいどうかん つか
樹脂製の水道管が使われるようになってきて
います。



3. えびの市の水道



① えびの市の水道はいつごろできたの？

しょうわ ねん (1970) えびの市が誕生しまし

た。そして、しょうわ ねん (1975) 「えびの市上水道

じぎょう はじ 事業」が始まりました。

しじょうすいどう しょうわ えびの市上水道は昭和52

ねん (1977) ちやっこう しょうわ ねん 着工、昭和55年

(1980) し ない ぜん い き きゅう す い 市内全域に給水ができるように せい び 整備を

すす 進めていきました。

れい わ ねん が つけ ん ざ い し ない こ 令和5年3月現在、市内の8,384戸、16,694

にん きゅう す い ふ きゅう り つ 人(給水普及率は94.4%)に

すい どう す い と ど 水道水が届けられています。



※給水普及率は、「令和6年度 水質検査計画」えびの市水道課 水道事業の概要より



② 水 水道の水はどこの水？

えびの市は、九州山脈の広大な自然からの

恵みである熊本県と宮崎県の県境にある

又五郎谷（川内川上流）の表流水（地上を流れ

る河川の水）と、導水路トンネル内からの湧水を

混合した水を原水としています。また、平成30

年4月より山内地区内の深層地下水（とても深

い所にある地下水）を追加しています。



③ えびの市の水道の送り方



てんぐやま どうすい
天狗山・導水トンネル

てんぐやま どうすい
天狗山には、導水トン

すいげんち と
ネルという水源地から取

い みず じょうすいじょう
り入れた水を浄水場

おく
へ送るためのものがあ

かきのきばるじょう
り、そこから、柿木原浄

すいじょう おく
水場へと送られます。

すいどう みず たか ひく たか
水道の水は、高いところから低いところへと高さ

りょう すいげん じょうすいじょう じょうすいじょう
を利用して、「水源」から「浄水場」へ、「浄水場」

はいすい ち はいすい ち
から「配水池」へ、「配水池」から

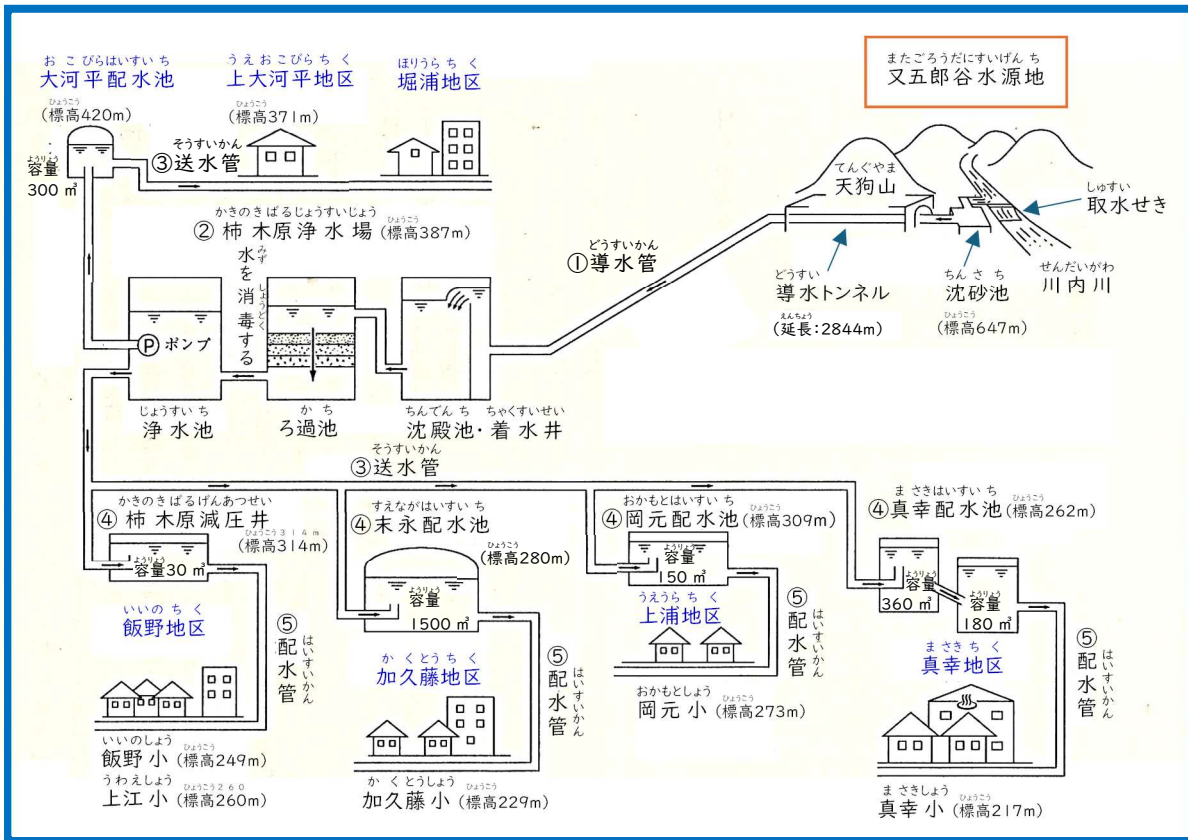
がっこう かにい
「学校やみなさんの家庭」へ、

そうすいかん はいすいかん
送水管や配水管を

とお おく
通り、送られます。



しすいどう みず おく かた ず えびの市水道の水の送り方(図)



『えびの市史 下巻』第8編現代第2章市制施行第2節行政機構と議会3水道 「えびの市水道の水の送り方」より

【① 導水管】

導水トンネルを^{とお}通^とってきたクルソン^{きょう} 峡^{みず}の水を柿^{かき}の木原^{きばる}浄水場^{じょうすいじょう}まで、はこびます。

【② 柿の木原浄水場】

ここは原水^{げんすい}に手^てを加^{くわ}えて飲用^{いんよう}の水^{みず}にする^すところ^とで、水道^{すいどう}の心臓部^{しんぞうぶ}にあたり^あります。この浄水場^{じょうすいじょう}には、水^{みず}をきれいにする^す沈^{ちん}でん池^{いけ}や水^{みず}の中^{なか}の微細^{びさい}な浮遊物^{ふゆうぶつ}や細菌^{さいきん}などを除^{のぞ}くろ過池^{かち}、そして消毒^{しょうどく}があり、安全^{あんぜん}な水^{みず}にします。

【③ 送水管】

浄水場^{じょうすいじょう}から配水池^{はいすいち}に浄水^{じょうすい}を送^{おく}ります。

【④ 配水池】

学校^{がっこう}や各家庭^{かくかてい}に送^{おく}る水^{みず}を貯^{たくわ}えておきます。

【⑤ 配水管】

水^{みず}を学校^{がっこう}や各家庭^{かくかてい}に送^{おく}ります。



④えびの市の水道はだれが管理と運営をしているの？

水道とは、飲み水を学校やみなさんの家などに配るための設備です。

水道の管理と運営とは、その設備を良い状態に保ち、みなさんの所に水を配る仕組みを進めていくことです。



えびの市の水道水はえびの

市水道課が管理と運営をしています。



水源地の取水口

(又五郎谷の川内川から水を取り入れる所)

←この取水口よ

り浄水場まで、およ

そ2,800mものトン

ネルを^{とお}通^{みず}って水が

はこ運ばれます。

現在の水道施設は建設されてから長い年月

が^た経^{ろうきゅうか}ち、老朽化が^{すす}進^{じしん}んでいます。また、地震^{たい}に対

して水道水をみなさんに供給

できるための施設の耐震化を

^{すす}進^{かだい}めていくことも課題となっています。



4. 水は大切に使いましょう



みなさんが飲んでいる水は、川内川最上流

(又五郎谷)が水源地となっています。

では、川の水はからどこからやってくるのでしょうか。

ほとんどの水は、海水が蒸発して空へ登って雲

となり、雨や雪になって地上に降ります。そして、

一部は地面にしみこんで地下水となり、また、山

の森林も水をたくわえます。

しみこまなかった水は地表を流れて川となり、



海に流れていきま

す。地球の水は、ぐるぐるまわっているのです。



わたしたちが^{りよう}利用した^{みず}水

も、川^{かわ}から海^{うみ}に流^{なが}れ、やがて

水道水^{すいどうすい}として利用^{りよう}し、また川^{かわ}

へと流^{なが}れていきます。きれいな水^{みず}を利用^{りよう}するためにはどうしたらよいでしょうか。

それは、川^{かわ}をよごさない、ということです。川^{かわ}をよ

ごさないためには、油^{あぶら}やごみ^{ごみ}を流^{なが}さないようにし

ましょう。そして、水^{みず}を使^{つか}いすぎないように気^きをつけましょう。



せんだいがわじょうりゅう 川内川上流 (クルソン峡) ^{きょう}



せんだいがわじょうりゅう きょう
川内川上流 (クルソン峡)

発行/2025年1月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司 2146-2 TEL/FAX 0984-35-3144

ホームページ



X (旧Twitter)

